

こども条例前文

○ はじめに

この条例の主役は、こどもたちです。こどもの意見や思いを受け止めて、こどもたちにとって最も良いことは何かを考えてつくりました。

今後、この条例をみんなに知ってもらい、みんなで話し合いをして、時代に合った新しい条例になるように1年ごとに見直しをしていきます。

○ みんなの願い

①～自分らしさ・個性・挑戦・失敗が認められ意見が尊重されること～

- ・みんな同じでなくていい。こどもが自分らしく生きる権利を大切にしてほしい。
- ・周りとは比べないで、一人一人の個性を大切に1人の人間として認めてほしい。
- ・どんなことも、ただ否定するんじゃなくて理由や事情を聞いて理解してほしい。
- ・こどもがこどもらしくできるようにしてほしい。
- ・どんな道を選んでも、応援してほしい。(はじめからできないと決めつけてほしくない。まずやってみたい。挑戦したい。)
- ・こどもの将来とかを大人は勝手に決めないで、話し合い、応援してほしい。
- ・こどもを放置したり過干渉せず、子どもの選択を支えてほしい。
- ・失敗しても私たちにとっては宝物だから、責めてほしくない。
- ・大人がこどもの選択を潰すんじゃなくて、未来を作る手助けをしてほしい。(自分にできることはやるけど、ひとりでできない事は手伝ってほしい。)
- ・子どもの頃に認められると大人になった時の自信につながる。子どもの頃に否定されると大人になったときの不信につながる。否定しないでほしい。
- ・こどもの意見を聞いて受け入れて尊重してほしい

②～安心安全・まちづくり・社会環境～

- ・こどもは安心して生きる権利がある、生きる権利を守ってほしい、生きていくために守られたい。

- ・市全体となって子どもを見守ってほしい。
- ・犯罪、暴力、いじめ、虐待などがない安心して暮らせるまちや社会にしてほしい。
- ・あらゆる差別を無くしてほしい。
- ・家の中でも外でも、大人も子ども同士でも、こどものプライバシーを守ってほしい。
- ・青梅の自然を大切にしたい。
- ・ごみのないきれいなまちにしたい。

③～居場所～

- ・得意なこと好きなことに思いっきり熱中したり、友達とおしゃべりしたりできる場所をつくってほしい。
- ・家以外で、子供が大人と関わる場所がほしい。
- ・大人の目から離れたこどもだけの場所がほしい。
- ・家や学校以外で安心できるような場所を増やしてほしい
- ・夜間の居場所もほしい。

④～学校・教育～

- ・様々な体験、経験ができるようにしてほしい。
- ・自分のペースで学ばせてほしい。(休みたいと思った時には休めるように、他の人と比べたりしないで自分のペースで。)
- ・学校で得意なことを活かせる場をもうけてほしい。(小さい頃に自分が一番になったり、中心になって活動ができる場) こども時代の成功体験が重要。現状スポーツ、勉強、委員会ぐらいしかない。

⑤～いっぱい遊んでいっぱい休む～

- ・こどもには遊んだり休んだりする権利がある。その権利を大切にほしい。
- ・今日を全力で遊ばせてほしい。
- ・十分に休みが取れるようにしてほしい。
- ・ゆったりゆっくり時間が流れる青梅時間をつくってほしい。